

平成26年8月27日

6年生 保護者 様

平成26年度 全国学力学習状況調査の分析について

小城市立小中一貫校
芦刈 観 瀾 校
校長 納 富 博文

平成26年4月22日に『全国学力学習状況調査』が行われました。この全国学力学習状況調査は、全国の小学6年生と中学3年生に実施されたものです。実施教科は「国語」「算数(数学)」の2教科で、主として「知識」を問うA問題と、主として「活用」を問うB問題による調査が行われました。また同時に、児童の生活習慣や学習環境に関するアンケート調査も行われました。また、5年生を対象に『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、「国語」「算数」の2教科が行われました。

本校では、全職員でその結果を分析し、本校児童の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、児童一人ひとりの学習の状況につきましては、「学習状況シート」を1学期末に配布しております。また、家庭学習の時間の確保など、御家庭の協力が必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。御家庭でもよろしく御指導お願いいたします。

	分析結果	今後の指導について
国語	<ul style="list-style-type: none">○全体としては、県平均とほぼ同じである。○「漢字や言葉に関すること」は県平均を大きく上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は大きく下回っている。○資料を読み取り与えられた条件(指定された言葉や文字数)に合わせて、自分の考えを書く問題や書かれた内容を関係付けながら書く問題、要約する問題で大きく下回っている。○最後の問題は「書くこと」に関する問題だったが、無解答率が他の問題に比べて高いことから、時間内に問題を解決することができなかった児童もいたと考えられる。	<ul style="list-style-type: none">○よみときブックなどを利用し、活用の問題に慣れさせる。資料を読み取り、条件を満たして、字数制限で文章を書く学習に取り組ませる。○話す、聞く力をつけるために、話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何かなどといった観点に基づいて、相手の話の内容を十分に聞き取ることができるように繰り返し指導していく。○言語事項は更に力がつくように、故事成語やことわざ、慣用句など常日頃から意図的に取り上げるなど、子ども自身が興味・関心を持つことができるように仕組んでいく。
算数	<ul style="list-style-type: none">○全体としては、県平均をやや上回っている。○観点別にみると、すべての観点で県平均より上回っている。とくに「数学的な考え方」においては、大きく上回っている。○「基準量をもとに比較量を求める問題」や「異分母どうしの分数の計算問題」、「基準量を相対的にとらえ、関係を図に表す問題」の正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none">○思考過程を明らかにして、数理を追究する力をつけるため、ノート指導を丁寧に行う。また、判定基準を示し、評価場面を増やすことで、児童自身に意識化させる。○図と式を関係づけて説明する場面を設定し、考えの理由や根拠を説明させることで、思考力を高めていく。○課題や習熟プリント学習を継続しながら、基礎・基本の力の定着にも取り組む。
生活に関する調査	<ul style="list-style-type: none">○朝食を毎日食べている児童の割合は9割を超えており、県平均とほぼ同じとなっている。○テレビやビデオ等を1日あたり1時間より少なく見ている児童の割合は約1割で、県平均を下回っている。4時間以上視聴している児童が若干いる。1日あたりのゲーム(携帯ゲームも含む)時間も7割を超える児童が1時間より少なく、県平均を大きく下回っている。○約9割の児童が1時間以上家庭学習をしており、県平均を大きく上回っている。	<ul style="list-style-type: none">○基本的な生活習慣については、今後も「家庭教育強化週間」を定期的実施し、重点的に家庭教育で取り組む項目(あいさつ・食事・早寝早起き・テレビの時間・家庭学習・手伝い・学校に行く準備など)について、指導を継続していく。○今後も自分で学習内容を計画して取り組める指導(自学ノート等)を継続して行っていく。

